

いきものログの活用について

田口 和哉（環境省生物多様性センター）

環境省生物多様性センターでは、市民による自然環境調査を推進するため、生き物情報投稿ウェブサイト「いきものログ」を平成25年（2013年）より運用しています。

これまで報告された生物の観察情報は4,775,445件、登録者数は5,167ユーザ（2019年8月20日現在）となっています。

生物多様性センターが実施した各種調査のデータも「いきものログ」を通じて公表しており、これらのデータはGBIF（地球規模生物多様性機構）にも提供しています。

いきものログの特徴

「いきものログ」は「報告する」「見る」「参加する」という3つの機能を備えています。

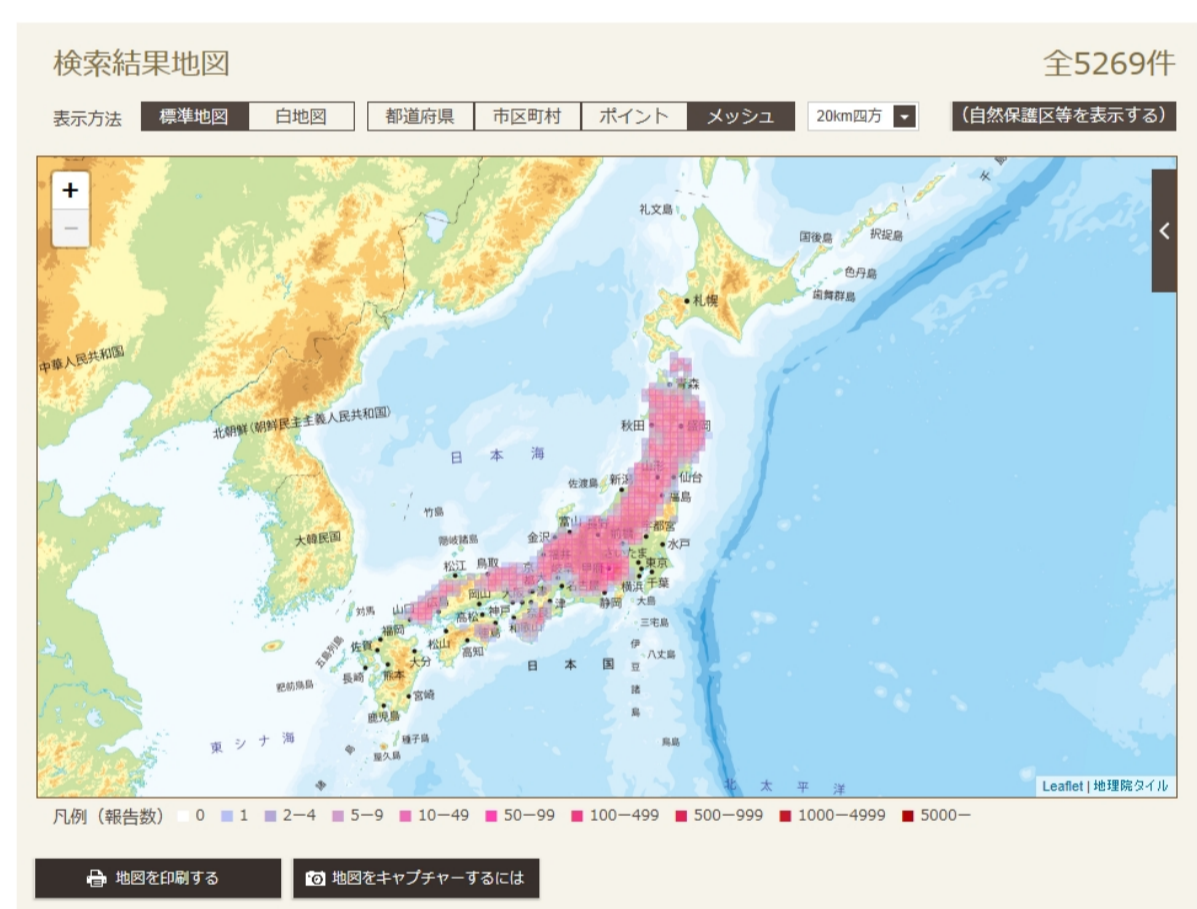
●報告する

ユーザ登録をすれば生き物の観察情報を報告できます。また、自分の報告をマイページで確認したり、生き物の名前を調べるお手伝いをする無料サービス「種名調べ支援」を利用したりすることができます。「種名調べ支援」の回答例



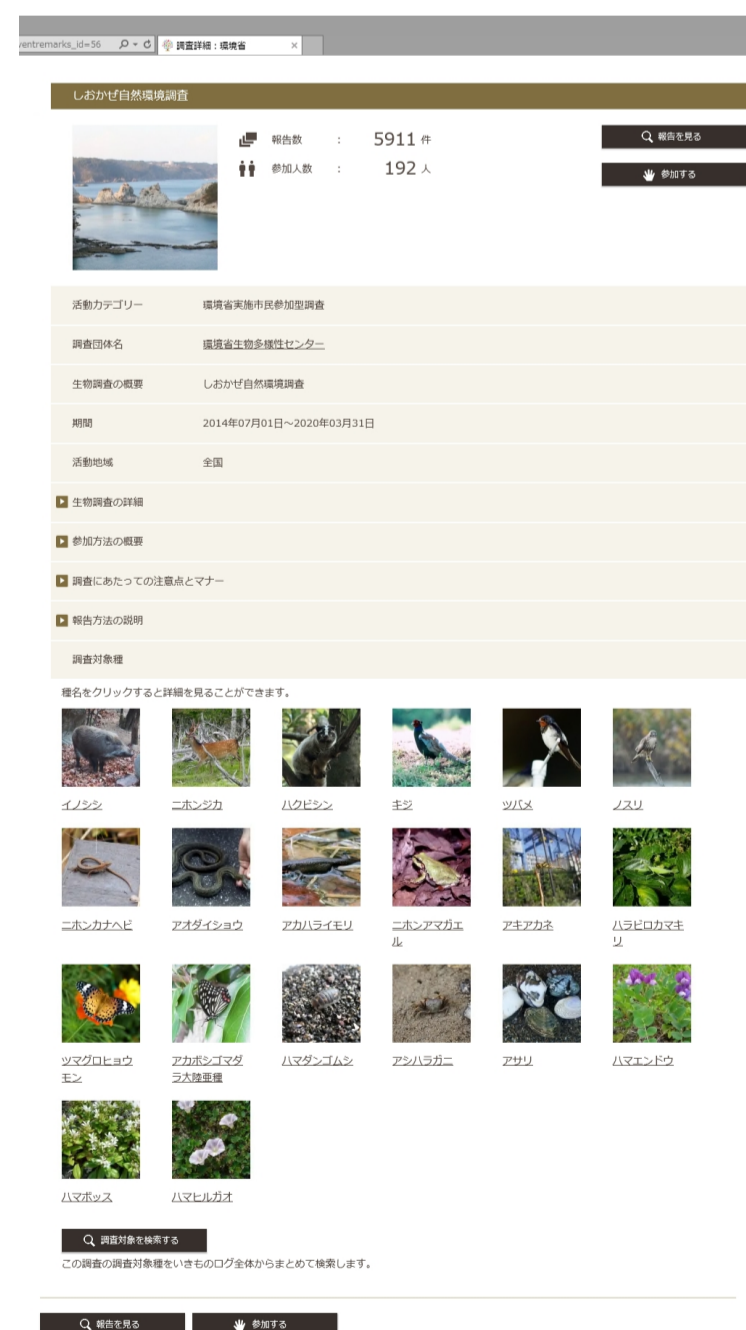
●見る

報告された観察情報は生物名や場所から検索できます。検索結果は分布図での表示（外来種および自身が報告したデータ以外は2次メッシュ以上の表示）や、GISソフトで表示可能な形式でダウンロードできます。分布図の表示例



●参加する

いきものログの登録ユーザは誰でも、団体を登録すればオリジナルの調査を実施することができます。登録した団体は、団体のマイページを開設したり、活動内容や実施中の調査（専用ページあり）の管理ができます。



団体調査（調査専用ページ）の表示例

いきものログアプリ

スマートフォンやタブレット端末で利用できる「いきものログ」専用アプリを提供しており、アプリを利用することで簡単に報告ができます。あらかじめ調査対象地域の地図をダウンロードしておけば、電波の届かない場所でも見つけた生き物の情報を端末の中に一時的に蓄積し、電波の届く場所に戻った際にまとめて報告することができます。



今後の活用に向けて

「いきものログ」では、さまざまな団体に団体調査を実施していただいています。

【団体調査でできること】

- ・団体調査では、誰でも参加できる調査と団体員のみ参加できる調査のどちらかを設定できます。
- ・団体員のみ参加できる調査は、調査を終了するまで、データを非公開にしておくことができます。（調査終了処理後は公開されます。）
- ・団体リーダーは報告時の精度で位置情報を利用することができます（センターへの申請が必要です。）

【実施中の団体調査の例】

●ふくおか生きもの見つけ隊

（代表ユーザ：福岡県（エコトン隊長））：福岡県内の身近な場所に暮らす生きものの調査を3件実施

参加者数：478人 報告件数：7246件（3件合計）

●信州の外来生物を見つけよう！

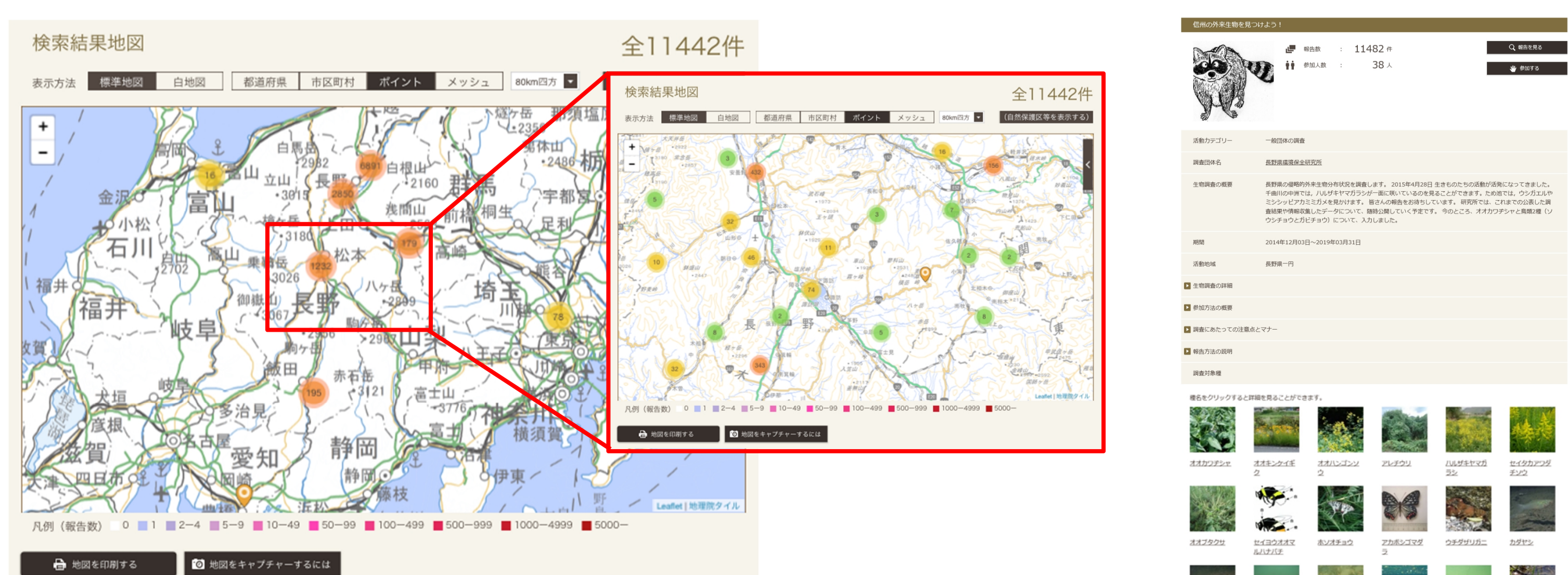
（代表ユーザ：長野県環境保全研究所）長野県内の侵略的外来生物26種の分布状況を調査
参加者数：39人 報告件数：11,482件

●南アルプスライチョウ目撃情報

（代表ユーザ：静岡市環境創造課）：「南アルプスライチョウサポーター」による南アルプス全域のライチョウの目撃情報調査
※団体員のみ参加・閲覧可

参加者数：28人 報告件数：151件

（データは2019年10月17日現在のものです。）



「信州の外来生物を見つけよう！」の表示例
（上）分布図
（右）調査の専用ページ